

# 津波対策 – 防潮堤を越えて敷地に遡上する津波に対する対策 –



ワーキングの詳細  
はこちらから

## 論点No.43、44

津波が防潮堤を越えて流入（遡上）する場合にも備えて対策を講じるとのことだが、具体的にどのような対策を講じるのか。また、津波が流入した場合、福島第一原子力発電所事故のように全ての電源が喪失することはないのか。



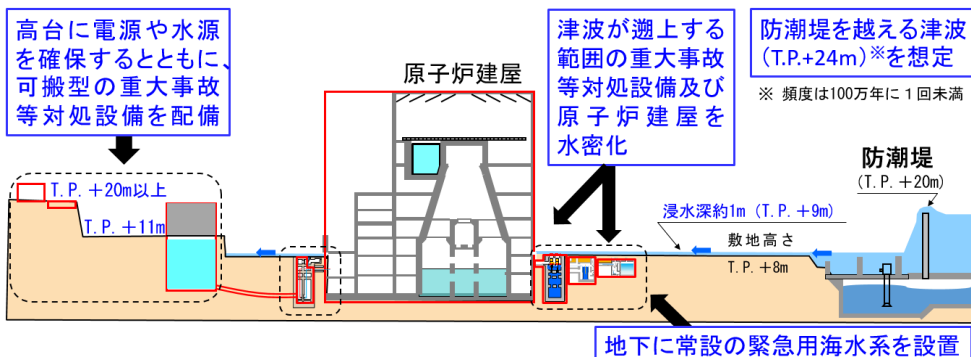
## ワーキングチーム検証結果

防潮堤を越えて津波が遡上する場合に備え、**建屋の水密化や可搬型設備を用いた対策手順を整備すること、電源設備は、水密化された建屋内に設置したり高台に配置したりすることで、遡上した津波により一斉に機能を喪失しないよう対策していることを確認。**

## ワーキングチーム検証結果（抜粋）

### ○防潮堤を越えて敷地に遡上する津波への対策

- 東海第二発電所には、津波対策として標高+20mの防潮堤を設置するが、防潮堤を越えて津波が敷地に遡上した場合の対策も講じる。
- 具体的には、敷地に遡上する津波として標高+24mの津波（発生頻度100万年に1回未満）を想定し、建屋の水密化や可搬型設備等を活用した原子炉冷却手順の整備等の対策を講じる。



敷地に遡上する津波への対策のイメージ

### ○電源設備の設置場所・位置的分散及び多様性

- 常設代替電源設備、可搬型代替電源設備は、敷地に遡上する津波が到達しない高台や水密化された建屋内に設置するなど、津波で一斉に機能が喪失しないよう対策

#### 電源設備の設置場所等

用途	設備名称	位置的分散				多様性
		種別	設置場所	設置高さ(標高)	津波に対する防護策	電源の冷却方式
交流	非常用ディーゼル発電機	常設	原子炉建屋附属棟	+0.7m	建屋の水密化	水冷
	常設代替高圧電源装置	常設	常設代替高圧電源装置置場	+11m	高所配置	空冷
交流/直流	可搬型代替低圧電源車	可搬型	屋外2ヶ所	+約23m +約25m	高所配置	空冷
直流	125V系蓄電池2A系	常設	原子炉建屋附属棟	+10.5m	建屋の水密化	-
	125V系蓄電池2B系			+8.2m	建屋の水密化	-
	125V系蓄電池HPCS系			+10.5m	建屋の水密化	-
	緊急用125V系蓄電池	常設	原子力建屋廃棄物処理棟	+8.2m	建屋の水密化	-
	可搬型整流器	可搬型	屋外2ヶ所	+約23m +約25m	高所配置	空冷